

## ～息子へ～

子どもを受け入れてから、3年が経ちました。

子どもは昨年から幼稚園へ通っています。妻が忙しいときには、自分の夢だった幼稚園へのお迎えにも行っています。今は白髪に跳ね上げ式メガネしてジーンズをはいて、渋めに送迎しています。

子どもは私が出勤する際、教えたわけではないのですが、妻の言葉を真似して、「弁当持った～。」  
「眼鏡持った～。」  
「車の運転に注意しられ」とか言ったあとに「行ってらっしゃい」と言ってくれます。その言葉を聞くと、子どもが成長したこともありますが、家族になったな～、かけがえのない家族だなあと感じます。

男の子ですので、父親として厳しいことも伝えなければいけないときがあると思います。でも、あまり厳しく言うと、子どもの持って生まれた素

晴らしい能力が消えてしまうように思います。そんな時、無言で親の背中を見せて教える方法もあると思います。また、信頼関係を築きあげるためには、親の方は言う事と行動を一致させないといけないと思います。責任重大です。

自分たち家族は、出会うまでに少し時間がありました。子どもと付き合える期間は一般的な家庭からみるとちょっと短いかもしれません。その分も含めて今の時間を大切に、愛情を注いでいきたいと思っています。

里親制度に巡り合わなければ、今の幸せはなかったと思います。人生が180度変わりました。里親制度イコール、小さな人命を最優先する制度と感じます。『人類皆、兄弟』と昔聞きましたが、やっぱり人間を救うのは人だと考えます。